

一、次の①～⑤の文の――線部のカタカナを、例にならってそれぞれ漢字に直しなさい。ただし、同じ漢字を二度使うことはできません。

例
視線がアう。(合) 友人にアう。(会)
(答) 合・会

① 下町は人情にアツい。
アツい気持ちを持ち続ける。

② 高層ビルがタつ。
弁がタつ。

③ 障子がヤブれる。
試合にヤブれる。

④ 新しい靴を足にナらす。
名選手としてナらす。

⑤ 手紙をカく。
画竜点睛をカく。

二、次の①～⑤の熟語について、~~~~線部の漢字を同じ意味で使っている熟語を()の中から選び、カタカナの部分の漢字に直し、例にならって答えなさい。

例
精神 (シツ神) 神ブツ 神ワ 神プ)
(答) 失神

① 音信 (信ニン ツウ信 信ヨウ 信ジャ)

② 婉曲 (メイ曲 ガツ曲 カ曲 曲カイ)

③ 起草 (草シヨ 草アン 草モク 草ゲン)

④ 陳謝 (謝ゼツ 謝ザイ 謝オン 謝レイ)

⑤ 交易 (ハイ易 易シャ ボウ易 ナン易)

三、次の文章は、近藤史恵の『さいごの毛布』の一節である。飼えなくなった老犬を預かって世話をする「老犬ホーム」に住み込みで働き始めた智美（チビちゃん）は、ホームのオーナーである麻耶子と、同僚の碧と一緒に、多くの犬たちを世話している。智美は、働き始めて早々に、老犬ホームの前に置き去りにされていたララを、自分の犬として飼うことになった。ある日、老犬と呼ぶにはまだ若いクロが、飼い主を名乗る女性（瀬戸口優花）に連れて行かれた。数日後、クロが「仕事」を終えてホームに戻ってきた。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

碧の言うとおり、クロがしょんぼりしていたのは、二日間だけだった。

三日目にはいつものように目を輝かせて、人の後ろをついてまわるようになった。仲良しのダニエルやクララと、取っ組み合つて遊び、散歩のときも高く尻尾をあげて歩いた。

ほつとしたのは事実だが、だからといって、①心の棘が抜けたわけではない。

碧の言う「クロの仕事」というのがなんだったのかは、インターネットで彼女の名前を検索してわかった。

智美は瀬戸口優花を知らなかったが、彼女はそこそ有名な女優らしく、記事や写真がいくつも表示された。

その中にはドッグフードメーカーのものや、犬の服を売っているサイトの広告などもある。

きちんと化粧して、髪をアップにした瀬戸口は、垢抜けていて美しかった。黒い服もすりとした体形を際立たせていた。

たいていの写真には、隣にクロがいた。

うれしいときの笑っているような顔で、瀬戸口に寄り添っている。

「血統書付きの犬って、あんまりぴんとかないんです。小さいときから、ずっとミックス犬と一緒に暮らしていたから。クロも保健所から引き取りました」

「犬と一緒にいると、仕事の疲れもどこかに行ってしまう。毎日、公園で一緒にジョギングをしています」

「動物はおもちゃやぬいぐるみとは違います。可愛がるだけではなく、責任を持って最後まで飼い続けることが大切です。安易な気持ちで飼わないで」

インタビュに答える彼女のことは、大好きで、犬への愛情にあふれているように見えた。もし、智美が本当のことを知らなければ、感じのいい人だと思っただろう。

(1-3)

だが、今の智美にはなにもかも空っぽで、使い捨てのプラスチック食器のように軽く感じられた。——うそつき。

クロをここに置いて行つたくせに。連れて帰るのは一ヶ月に数日だけのくせに。

たいていの記事は、広告とのタイアップだから、ギランティが発生するのだろう。だから仕事だ。クロと一緒にっこり笑って喋るという仕事。

その仕事を断れなどという権利は智美にはない。だが、それに振り回されて、喜んだり、しょんぼりしたりしているクロが可哀想だった。

その日の午後は雨だった。

雨の日、仕事は少し減る。元気な数頭を除いて、雨の日は外に出たがらないし、庭での運動もしない。その代わり、出たがる犬たちを散歩に連れて行くのは少しやっかいだけど。

ビニールのカップを着せ、帰ってきたら肢を丁寧に洗い、全身を拭く。あまりにも濡れているようならドライヤーで乾かす。

その作業を含めても、全犬を散歩に連れ出すより、かかる時間は短い。だから雨の日は落ち着いて仕事を進めることができる。麻耶子などは、天気予報を見て雨の日に休みを合わせたりしている。

その日も午後の時間がぱつかりと空いた。

智美はブラシを持って、犬たちのそばに座った。ブラッシング好きのアントンと太郎が真っ先にやってくる。

智美はアントンを膝にのせてブラシをかけた。

②ふいに、そばでおもちゃを噛んでいたクロがぱつと立ち上がった。

台所に向かって駆けていく。

「クロ、どうしたの？」

不思議に思い、智美はアントンを膝から下ろした。そのままクロを追いかける。

クロは台所の柵の前で、Aおろおろとしていた。台所には今、誰もいないはずだ。どうかしたのだろうか。

近づいてはつとした。ダイニングテーブルの横にある、テレビがつけばなしになっていた。

テレビには瀬戸口優花が映っていて、隣にはクロがいた。

瀬戸口はきれいな笑顔で、クロを撫でながら話をしていた。

(1-4)

「クロとはじめて会ったのは五年前です。今は大きくなったけど、当時は片手で持てるほど小さかったんです。わたしは黒い服が好きだから、クロが寝ていると、『あれ、こんなところにセーター置いたっけ』とか思ったものです」

ああ、と智美は思った。

きつとこれが、この前の仕事だったのだろう。クロは相変わらずまっすぐな目で、瀬戸口だけを見ている。

スタジオにはほかに人もがいるが、クロの目は彼女から離れない。

柵の前にいる本物のクロは切なげに鼻を鳴らし始めた。

彼には瀬戸口の声だけが聞こえている。それがテレビであることには気づいていない。台所から、大好きな人の声がして、それなのに姿が見えないことに困り果てている。

テレビを消そうと柵を開けると、クロは智美の横からすり抜けて中に入ろうとした。

「こら、ダメ！」

精いっぱい大きな声で叱ると、クロは耳を寝かせて身体を低くした。抗議するような声でアオアオと鳴き出した。

クロは普段は、柵が開いていても台所に入らない。叱られることをちゃんと知っている。クロの目は言っていた。今日は特別なのだ、と。

大好きな人がいるから。

テレビの中の、瀬戸口が言った。

「犬って、本当に人間の気持ちがわかるんです。わたしが悲しいとき、ずっと傍に寄り添ってくれたりして……。本当に癒やされます」

勝手に口が動いていた。

「犬は人間の気持ちがわかるけど、人間は犬の気持ちなんかわからないんだね」

クロはこんなに瀬戸口を慕っているのに。彼女が迎えにきたら、あんなに喜んで、置いて行かれたらあんなに悲しんで。

麻耶子も碧もクロを可愛がっているのに、それでも瀬戸口はクロにとって特別なのだ。

どうしようもなく腹が立って、智美はクロに言った。

「あんな薄情な人のこと、忘れちゃいなさい」

「お客さんの悪口は言わないで」

(1 - 5)

驚いて振り返ると、麻耶子が立っていた。

「誰も聞いていなくても、ここで働いている限りはお客さんの悪口は言わないで。あなたのお給料が誰から出ているか、よく考えなさい。親しい友達にも絶対にこんな話をしないで」

③ 智美は唇を噛んだ。はじめて麻耶子に怒られた。注意や指導ではなく、叱責されたとはじめて感じた。

麻耶子は続けた。

「ララの元飼い主の悪口はいいわよ。あの人からは一銭ももらっていないんだから。でも、瀬戸口さんは規定の料金をちゃんと払ってくれてるお客様だから、変なことは言わないで」

④ 自然に口が動いた。

「お金さえもらえば、どんな人からでも犬を預かるんですか？」

「そうよ。うちはそういう仕事だからね。ボランティアでやってるわけでもないし、かつかつで、お客様を選べるような殿様商売じゃないの」

そう言われると反論できない。

「チビちゃん、意外に正義感が強いよね。そんな子じゃないと思ったけど」

自分でも不思議だった。確かに智美は正義感に駆られて人に噛みつくような人間ではない。いじめられても、嫌がらせをされても、ずっと下を向いて我慢だけしてきた。

でも、クロの様子を見ると我慢できなかった。

「言ったでしょう。この仕事は犬が好きすぎるときつい。きれい事じゃ商売できないわ。たとえば、飼い主さんがどんなに身勝手なことを言っても、お金をもらえる限りは、犬を預かるのよ」

⑤ 泣きそうな気持ちのまま、少し笑った。

麻耶子だって、瀬戸口が身勝手だということはわかっているのだ。

テレビはCMに変わっていた。クロがまた鳴いた。瀬戸口がいなくなってしまった、とでも言いたげに。

麻耶子はしばらく黙っていた。智美もなにも言わない。

「チビちゃん、ララのとくも思ったけど、あなたこの仕事がいちばん向いてないタイプの人間かもね」
息を呑んだ。直球を投げられた。だから智美も投げ返す。

「クビですか？」

「まさか。向いてないことを自覚して、きちんとわきまえてくれればいいのよ。ボランティアでもな

(1 - 6)

いし、この仕事は愛にあふれた素晴らしい仕事でもなんでもない。むしろ、身勝手な人間たちの手助けをする仕事だって」

身勝手な人間。

確かにそうかもしれない。責任感のある人なら、犬を最後まで飼う。老犬になったからといって手放したりはしない。

麻耶子は時計に目をやった。

「今日は、ちよつと早いけど、もう上がつてもいいわよ。碧もわたしもいるから」

自室に入ると、ベッドで丸くなっていたララが顔を上げた。いつものように吠えるわけでもなく、びつくりした顔で智美を見つめている。

智美はベッドに腰を下ろした。ララは少し後ずさつて、智美から逃げた。

無性に悲しかった。瀬戸口の自分勝手さと、それでも瀬戸口を慕うクロが。

なによりも落ち込むのは、麻耶子と正面衝突してしまったことだ。

冷静に考えると、麻耶子の言うことは正しい。客の悪口を言うのは、いいことだとは言えないだろう。

それでも、智美は麻耶子に同意してほしかった。

同じ気持ちを共有したかったのだ。それは甘えに過ぎないのだろうか。

見れば、ララは目を丸くしたまま、智美の足元にいた。じつと智美の顔を見つめていた。

半分泣きながら、智美は笑った。

瀬戸口の言うことは本当だ。犬には人間の気持ちがよくわかる。

少しも懐いてくれないララですら、智美がいつもと違うことに驚いている。

「ララ」

名前を呼んで、手を伸ばすと、じりじりと後ずさつた。だが吠えようとはしない。これまでは歯を剥いて怒っていたのに。

麻耶子には向いていないと言われたけれど、この仕事をやめたくはない。

こんなに静かな気持ちで働けたことはないし、なによりララがいる。ここを出てしまえば、ララを手放さなければならないかもしれない。

だとすれば、智美はララの元飼い主と同じような人間になつてしまう。

ララはまだ懐いてくれないけれど、フードは食べるようになったし、今日は吠えない。少しずつ、智

(1-7)

美を受け入れてくれている。

しばらくして、智美はまた一階に下りた。麻耶子がクロと遊んでいた。

クロの氣に入っているおもちゃで、引つ張りつこをしていた。クロは瀬戸口のことなど忘れてしまったように、夢中でおもちゃを引つ張っている。

智美は、麻耶子の横に立った。⑥ 麻耶子になにか言われる前に口を開く。

「わたし、やめません。ここで働きます」

麻耶子はクロからおもちゃを取り上げた。クロは不満げに鼻を鳴らす。

「じゃあ、割り切りなさい。わかったわね」

「割り切れるかどうかはわかりませんが、割り切ったふりはできると思います」

そう言うと、麻耶子はくすりと笑った。

⑦ 千比ちゃん、あなた意外に頑固ね」

そう、それはよく言われる。子供のときから親や妹にも何度も言われた。

自分は氣が弱くて、声が小さくて、嫌がらせをされたり笑われても、言い返すことすらできないけれど、それでも意外に頑固なのだ。

—— 近藤史恵『さいごの毛布』による

(問題作成上の都合から一部原文の表記を改めた)

(注) *1 タイアップ……提携すること。ここでは記事と広告が連動していること。

*2 ギャランティ……出演料。「ギャラ」ともいう。

(1-8)

問一 線部A「おろおろと」、B「息を呑^のんだ」、C「わきまえて」について、これらの言葉を

本文中と同じ意味で使っている文として最もふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

A 「おろおろと」

ア
楽しみにしていた映画が始まるというので、席に着いた僕は（ぼく）今からおろとしている。

イ
駅に着いた途端とたんに、電車がホームに入ってきたのを見て、思わずおろおろと駆けだした。

ウ 並み居る審査員しんさの前で次に演奏するのは自分だと思うと、足がおろおろとしてしまう。

エ コンタクトレンズを落としてしまった兄は、地面をおろおろと探し続けている。

才傘かさを持ってきていなかった僕は、突然とつぜんの夕立を前に、ただおろおろとするばかりだった。

B 「息を呑んだ」

ア 今日が誕生日の友人を驚かせるために、クラス全員で一斉に息を呑んだ。

イ朝、起き抜けに水を飲んだばかりで、何も食べておらず、空腹のあまりつい息を呑んだ。

ウ 今日、みんなの前で発表する予定の原稿げんこうを忘れたことに気づき、思わず息を呑んだ。

工
食べ放題のレストランで、元を取ろうとして食べ過ぎた彼は、つい何度も息を呑んだ。

オコンクルの結果発表を一週間後に控え、^{ひか}思わず息を呑んだ。

C 「わきまえて」

ア 暗いニュースばかりだと、この先のことをつい思いわきまえてしまう。

イ 約束通り、君と僕とで報酬ほうしゅうをすっかりわきまえてしまおう。

ウ 自分に制限をかけずにどこまでもわきまえていくことが人を成長させる。

ファンとしての立場をわきまえて、選手がプレーに集中できるように配慮すべきだ。はいりよ

才 昨日の晩から、何度も何度も繰^くり返しわきまえてしかたがない。

問二——線部①に「心の棘」とありますが、それは智美のどのような気持ちを表したのですか。

四十字以内で説明しなさい。

【下書き欄】—— 必要ならば使いなさい。

[illegible]

問三——線部②に「ふいに、そばでおもちやを噛^かんでいたクロがぱつと立ち上がった」とあります

が、それはどうしてですか。その説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア瀬戸口の声が聞こえてきて、すぐ近くにいるのではないかと思ったから。

イテレビに出ている瀬戸口が、自分のことを話していることに気づいたから。

ウ 叱しかられるようなことをしてでも、すぐに瀬戸口のところへ行きたかつたから。

工瀬戸口がテレビに出ているのに気づき、声を聞くだけではなく映像でも見たかったから。

才瀬戸口が自分たちの大切な思い出を語っているのを聞き、懐かし^なくてたまらなくなったから。

問四 ――線部③に「智美は唇を噛んだ」とありますが、このときの智美の様子について説明した

文として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア いくら怒りに駆られたとはいえ、職員として越えてはいけない一線を越えた発言を聞かれてしまい、これ以上この仕事を続けられないと思い始めている。

イ オーナーとして信頼を寄せていたのに、許すことのできない客を擁護する麻耶子に対して、言

いような怒りを覚えつつも、どうにか抑えようとしている。

ウ 可愛がつているクロのことを思うからこそ出た発言なのに、その思いそのものを頭ごなしに否定された気がして、理想とは違う現実に失望している。

エ クロに対する愛情ゆえの発言とはいえ、自分に対して優しく接してくれた麻耶子の信頼を裏切る発言をしてしまったことに気づき、自己嫌悪におそわれている。

オ 感情を抑えられずつい客への不満を口にしてしまったことをとがめられ、今までになく厳しい

麻耶子の言葉に衝撃を受けて、何も言えなくなってしまうている。

(1-11)

問五 ――線部④に「自然に口が動いた」とありますが、それはどうしてですか。その説明として最

もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 犬がどれほど飼い主のことを思ったとしても、報われないことがあるという悲しい現実を告げる麻耶子の発言は、一般的な話としては理解できるものの、日々世話をしている自分としては、クロのためにひとこと言っておかねばならないと感じたから。

イ 日々クロの世話をしている自分は、犬に対する愛情は行動に表れるものだと思っていたが、お金という尺度でのみ飼い主の愛情の有無をはかろうとする麻耶子の考えを聞き、自分の考えを否定された気がして悲しくなったから。

ウ それぞれの犬と飼い主の関係を考慮することなく、お金を払ったか否かだけで客の要求を受け入れるかどうか決めるという麻耶子の発言は、目の前にいるクロのことを考えると、受け入れられないものだったから。

エ 自分の信念に従って行動するという点では上司である麻耶子に共鳴していたが、目の前にいるクロのことを大切に思う自分にとっては、飼い主の善し悪しを金銭面だけで判断することが許せなかったから。

オ 日々クロの世話をしている自分は、お金を払ってもらったことですべてを受け入れてしまおうとする麻耶子の考えには納得できず、上司であっても間違った考えには反論しなくてはならないという正義感を抑えることができなかったから。

(1-12)

問六——線部⑤に「泣きそうな気持ちのまま、少し笑った」とありますが、それはどうしてですか。六十字以内で説明しなさい。

【下書き欄】—— 必要ならば使いなさい。

問七 ――線部⑥に「麻耶子になにか言われる前に口を開く」とありますが、智美がこのようなしたのはどうしてですか。その説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　思いがけず麻耶子に叱責しつせきされた時は言い返すことができなかったが、ララと一緒にいっしょにこの仕事を続けていくためには、何も言い返さずに引き下がるわけにはいけないと思ったから。

イ 少しずつ心を開き始めているララを手放すことを避けるためには、自身の正義を押し通すことをあきらめ、オーナーである麻耶子の方針に逆らわないことが得策だと考えたから。

ウ　せつかく自分になれてきたララと一緒に暮らすには、きちんと割り切った上でこの仕事をやり遂げる必要があるため、揺るがない決意を麻耶子に示しておきたかったから。

工 今までになく働きやすい環境であるばかりでなく、心が通じ始めたララとの生活のために必要なこの仕事を続けたいという強い気持ちで、自分から麻耶子にはつきり伝えておきたかったから。

才 自分の気持ちを抑えきれずに衝突しょうとつしたが、ラウを前にして落ち着いて考え直すと自分に非があることに気づき、このまま麻耶子に嫌われてしまうことをなんとしても避けたかったから。

問八——線部⑦に「チビちゃん、あなた意外に頑固がんこね」とありますが、このときの麻耶子の心情はどのようなものですか。その説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　麻耶子の方針には賛成できないと言っていた智美が、ララを手放したくない一心で、自分の考えを曲げてでも麻耶子の考えを受け入れようとする様子から、周囲と折り合いをつけようとする姿勢を感じ取り、智美の考えを尊重してあげようと思い直している。

イ 働き続けるために自分の考えを変えて麻耶子に合わせるかと思っていたが、考えそのものを變えることなく折り合いをつけてきた智美のしたたかさを微笑ほほえましく思い、智美なりのやり方を受け入れてあげようと思っている。

ウ　自分があえて突き放した言い方をしたので、今までの智美であれば容易には受け入れられないだろうと予想していたが、ここで働き続けていくために不本意ながらも麻耶子の考えを受け入れるという選択せんたくをしたことから成長を感じ取り、これからの智美に期待している。

エ 犬が好きだという自分の気持ちをまっすぐに伝えてくる智美を微笑ましく見守りつつも、仕事としてやっていくうえでの厳しさは、まだ若い智美にはわからないのだと悟り、いつかは智美も自分のように現実に対する厳しい認識にんしきを持つに至るだろうと思いを馳はせている。

オ　犬を愛するがゆえにつらい思いをたくさんしてきた麻耶子は、麻耶子の厳しい言い方に反発する智美の正義感がかつての自分の姿と重ね合わせ、その正義感をいつまでも失わずにいられるように、これから先も温かく見守っていかうと思っている。

四、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

たとえばショッピングで、気に入った洋服が二つあったとしましょう。洋服Aと洋服B。同じくらい気に入ったのですが、残念なことに両方を買うだけの予算はありません。断腸の思いでAを選びました。さて、このとき、洋服AとBの印象はどう変わるでしょうか——AとBへの好ましさについてアンケートを採ると、選択前に比べて選択後はBへの平均評価が下がることがわかります。つまり、自分が選ばなかったほうの洋服について「それほどよくはなかった」と意見を変えてしまうのです。

そこで、別の選択実験を行ってみます。洋服Aと洋服Cの選択です。今回は洋服Cよりも、洋服Aの方がいくぶんか好みます。躊躇なくAを選ぶでしょう。この場合は、選択後のCへの評価は下がります。このことから、選択後の①好感度の変化は、品物の好ましさに明確な差がないときにだけ現れることがわかります。

もう一つの実験を紹介しましょう。団体に入会するために「儀礼」を受けるという実験です。厳しい儀礼と、それほど厳しくはない儀礼のどちらかを受けて入会してもらいます。入団後に、その団体が好きかどうかを聞くと、厳しい儀礼を受けた人のほうが団体に対する好感度が高いというデータが出ます。

さて、この二つの実験の結果をどう解釈したらよいでしょう。両者に共通するのは認知の不協和が生じていることです。

一般に、自分の「行動」と「感情」が一致しないとき、この矛盾を無意識のうちに解決します。つまり、行動か感情のどちらかを変更して、両者を一致させようと試みます。この二つでは、どちらが変えやすいでしょうか。言うまでもありません。「感情」のほうです。「行動」は既成事実として厳として存在しています。事実を変えようがありません。そこで脳は感情を変えるわけです。

洋服AとBでは、はじめは同じくらい好きだったかもしれませんが、しかし自分はAを選んで、Bを排除してしまった。理由はなんであれ、その行為自体は事実であって否定できません。しかし「BもAと同程度に好きだった」という感情は、自分のとった行動とは矛盾します。こうした状況では、この感情内容を変更するのです。「本音を言えばBはそれほどよいとは感じていなかったのだ」と。一方、洋服Cは、はじめからAほど好きではなかったわけで、Aを選択したという自分の行為と感情に矛盾はありません。だからCに対する好感度を変える必要はありません。

二つ目の入会儀式の実験データについても同じように説明できます。儀礼はそもそも面倒で不快なも

(1-15)

のです。できれば儀礼は受けたくはありません。厳しい儀礼となればなおのこと。しかし、自分は厳しい儀礼を受けてまで入団した。これは事実である。この事実を変えられません。だからこそ「その試練を進んで受けるほどに私はこの団体が好きだったのだ」となります。

このように②心の不協和を無意識のうちに解決しようとする圧力は、大人だけでなく、子供にも観察されます。次は4歳児に対して行われた実験です。

a「そのオモチャで遊ぶでは絶対にダメ」とお母さんに厳しく禁止されたときと、b「遊ばないでね」と優しく言われて、遊ぶのを止めたとき、子供たちのオモチャに対する好感度を比べます。すると、同じオモチャであっても、優しく諭された方が、好きな度合いが減っていることがわかります。

優しく言われた場合は、他人から指示されたとはいえ、自分の意志で遊ぶのを止めたという自由な要素が残ります。つまり、「私が遊ぶのを止めたのだから、そのオモチャは大して面白くなかったのだ」という結論になるのです。一方、強く禁止された場合は、遊ぶのを止めた理由が明確です。楽しかったけど、止めざるを得なかった。自分の取った行動にいい点はありません。

イエール大学のエガン博士らは巧妙な実験を行なって、なんと、サルにも自己矛盾を回避する心理があることを証明しています。高等哺乳類に普遍的な原理なのかもしれません。

ちなみに、この「認知的な不協和を回避する」という理論そのものはアメリカの心理学者フェスティンガー博士らによって、50年以上も前に提唱されたものです。彼による有名な実験があります。面白くない単調な作業をさせて、その後に「楽しかった」と言ってもらおうというものです。そして謝金を渡すのですが、このとき実験参加者を二つのグループに分けます。片方には20ドルを、もう一方には1ドルを支払います。その後、作業がどれほど面白かったかというアンケートを採りました。

ここまで読んできた皆さんでしたら、フェスティンガー博士らの実験結果がどうなったか想像できるでしょう。c1ドルをもらったグループのほうが面白いと感じたのです。高額な謝金をもらった方は、作業をしている理由が「金がもらえるから」だと認識できます。しかし1ドルでは「金が欲しくてやった」にしては割に合いません。つまり、作業をする十分な理由が見当たらないのです。心理矛盾です。そこで「実のところ、自らすすんでやるほど楽しかったのだ」と態度を変えて納得します。

次に、私たちがものを選択するときのことを考えてみましょう。

A社株、B社株——どちらに投資すべきか迷うとき、両者を徹底的に比較し、「相対評価」に基づい

(1-16)

て判断するでしょう。

実際には、物の価値は状況によって変わります。たとえば、1万円札と1円玉では金銭的な価値の差は明白です。とはいえ、壊れた缶ジュースの*ブルトップをこじ開けたい時は1円硬貨のほうがテコ具として有用です。動物でも同様な柔軟性が見られます。ジュース1mlと水10mlでは、サルは通常は前者(質)を選びますが、喉が渴けば後者(量)を取ります。

脳を覗くと、相対価値を計算するニューロン(神経細胞)が「前頭葉」に多く存在していることがわかります。これらのニューロンが私たちを正しい決断へと導いてくれるのでしょう。

私たちは情報の「利用」と「収集」という相反する二つの選択の中で生きています。これはとても重要なことです。

スーパーマーケットでサラダ用にレタスを買っている女性を例に考えてみましょう。彼女はレタスが大好物。逆にキャベツやキュウリは好きでないので、あまり買うことはありません。そんなある日、いつものように買い物に出かけると、レタスの隣に、「甘さたつぷり」と書かれた新種のキャベツが並んでいました。

いつも通りレタスを買えば、美味しいサラダが食べられることは約束されています。しかし、新しいキャベツはどうでしょう。もしかしたらこの新種キャベツはレタス以上に自分の嗜好に合っているかもしれない。もちろん、新野菜に挑戦したところで、やはりニガテな味だったなどと再認識させられることもありうるでしょう。

この例では、いつも通りレタスを買うという選択が、過去の情報を「利用」することに相当し、^③新種キャベツを買ってみることが新しい情報を「収集」するという冒険に相当します。

安全の確保(情報の利用)か、リスク(情報の収集)か――。脳はこの相反する選択肢から意志決定をしなければなりません。この時どのようにして判断を下すのでしょうか。ロンドン大学のドウ博士らは、そんな脳の状態を調べた研究成果を報告しています。

博士らはTVゲームの*スロットマシンを4台用意しました。それぞれの台は「当たり」の確率が異なり、さらに、この確率は時間の経過とともにゆっくりと変化します。実験参加者は、毎回4台のスロットから好きなものを選んで、賭けを繰り返します。

このゲームで、実験参加者が取る戦略を見ると、決して無秩序にスロットを選んでいくわけではないことがわかります。現時点で一番当たりやすい台を選ぶ傾向があるのは当然としても、時には他のス

ロットの当たり確率もチェックしています。知らぬ間に賭け率が変わっていて、他の台のほうが儲かる可能性があるからです。

ゲーム中の脳の活動を調べると、「どれほど儲かるか」という損得比較を行うのは「^{*4}眼窩前頭皮質」であることがわかります。この脳部位の活動が、より確実なペイが見込める台を選ぶための基準となります。一方、いま安全であると判断しているスロットをやめ、敢えて他の台を試すときには「^④前頭極皮質」が活動します。

この二つの脳部位がバランスを取りながら、選択行動を決定するらしいのです。

日常生活でも、当初もつともよい選択であつたからといって、^{*6}安全パイばかりを選んでいくと、知らぬ間に世界が変わっていて、 よろしく、気付けば大損をしていることもありえます。だからといって、根拠のない賭けばかりでは、これもまた問題です。これに対処するために、ヒトは、眼窩前頭皮質と前頭極皮質という対立する二つの脳部位を、進化の過程で発達させてきました。つまりは「情報利用と情報収集のバランスを保て」ということになるのですが、不思議なことに、歳を重ねると、私たちは情報収集型人間から情報利用型人間へと変化していく傾向があります。

最近、身近な人との会話だけで一日が終わっていないでしょうか。新しいレストランが開店しても、行きつけの店ばかりに通ってはいないでしょうか。ときには思いきって冒険脳「前頭極皮質」を開放すれば、^⑤普段とは違ったワクワクするような「若さ」が保たれるのかもしれません。

^⑥最近、「眼窩前頭皮質」に関して意外な発見がありました。眼窩前頭皮質は先にも説明しましたように「価値を比較する」ことに深く関与する「相対価値」専用の脳部位だと思われていたのですが、この回路の中に、「絶対価値」を評価する脳回路が存在することが発見されたのです。周囲の状況に左右されずに価値を一定に評価できるニューロンです。つまり、脳は相対価値だけでなく、他の要因の影響に流されずに客観視する能力も併せ持つというわけです。

あらゆるものごとの価値が相対化する傾向にある昨今ですが、相対判断は、実のところ、近視的な^{*7}ストラテジーではありません。大局的な見地から大切なものを選び抜くためには、絶対価値を推算する力が必要なのは明らかです。脳がそんな回路を用意してくれていることを知って、ちよつとうれしくなりました。

――池谷裕二『脳には妙なクセがある』による

(問題作成上の都合から一部原文の表記を改めた)

(注) *1 プルトップ……缶かんのフタのこと。

＊2 前頭葉……脳の前方にある部分。

＊3 スロットマシン……複数の絵柄や数字が揃うと「当たり」になるゲーム。

*4 眼窩前頭皮質……「前頭葉」の一部。直後の「前頭極皮質」も同じく「前頭葉」の一部。

*5 ペイ……ここでは「当たり」によつて得られる報酬ほうしゅうのこと。

＊6 安全パイ……ここでは安全な選択肢のこと。

*7 ストラテジー……戦略。作戦。

問一——線部①に「好感度の変化」とありますが、同じように「好感度」が「変化」するのは、本

文中の~~~~線部 a と d のうち、どの場合ですか。その組み合わせとして最もふさわしいものを、

次のア～カの中から一つを選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| カ | オ | エ | ウ | イ | ア |
| c | b | b | a | a | a |
| . | . | . | . | . | . |
| d | d | c | d | c | b |

(1-19)

問二——線部②に「心の不協和を無意識のうちに解決しようとする圧力」とありますが、「心の不協和」を「解決」する、とはどういうことですか。六十字以内で説明しなさい。

【下書き欄】—— 必要ならば使いなさい。

A blank grid for graphing. The vertical axis is labeled with 60, 40, and 20. The horizontal axis is labeled with 60, 40, and 20. The grid consists of 10 columns and 10 rows of squares.

問三——線部③に「新種キャベツを買ってみることが新しい情報を『収集』する」という冒険に相当

します」とありますが、このような「冒険」をすることがあるのはなぜですか。その説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 意に沿わない結果になる可能性はあるものの、人それぞれ考えは違っているので、他人の判断に頼って選択した方が、かえって自分にとってはよい結果になることもあるから。

イ意に沿わない結果になる可能性はあるものの、自分をとりまく状況は常に変わるものであり、最善であつたはずの選択に対し、より良い選択肢が後になつて浮上することもありうるから。

ウ 意に沿わない結果になる可能性はあるものの、先入観によつて決めつけられた価値判断だけでは、選ばれなかつた選択肢の持つている本当の素晴らしさを理解することはできないから。

工 不本意な事態を招くかもしれないが、前例に従つてばかりいると、未知への不安を解消することとはできても、選択に自信が持てないという根本的な問題から逃げ続けることになるから。

才 不本意な事態を招くかもしれないが、特定の行動だけを行っていると、意志決定に関わっている脳の特定の部分しか発達せず、結果的に判断力が衰えてしまうから。おとろ

(1-20)

としてふさわしいものを、次のア～カのうちから二つ選び、記号で答えなさい。

すでに持っている商品にもかかわらず、店員に強くすすめられるままに買ってしまふ。

イ 今までは飛行機で訪れていた祖母の家に、今年は新しく開通した新幹線で行こうと考える。

ウ 事故で電車の止まっているところを避け、目的地に向かうためにいつもと違うルートを探す

工 今年から始めるイベントに一人でも多く来てもらうために、どのように宣伝するかを検討する

才 困っている人たちのために、私財をなげうってでも支援活動を行うべきだ考える

力せわしなくも安定した生活に見切りをつけて、なじみのない地方で農業を営む決意を固める

えなさい。

ア
浦島太郎

イ
かぐや姫

ウ
笠地蔵

工
か
ち
か
ち
山

オ
花咲かじいさん

次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

で、人々のために役に立つ存在であり続けようとする

はの情報を収集して、自分らしさを維持しようとする

伴うような生活を心がけて自分の可能性を広げていく

い、絶えず新しい挑戦を続けて成功を目指していく

は新しいことに取り組んで自分の経験をより広げていく

「発見」の内容に触れながら、六十字以内で説明しなさい

【下書き欄】—— 必要ならば使いなさい。

